

第18回

住宅課題賞 2018

建築系大学住宅課題優秀作品展

— 第18回 —

住宅課題賞 2018

建築系大学住宅課題優秀作品展

開催日時

2018年11月2日(金) — 11月20日(火) 10:00~18:00

土・日・祝日休館(10日(土)は開館)

会場

ギャラリー エー クワッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店1F

<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4



一般社団法人
東京建築士会
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は18回目を迎えましたが、年々参加大学も増え、本年は39大学51学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クワッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2018年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。

課題作品は、平成29年9月（前年後期）以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm ×横594mm）縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。

大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞 賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日 時】

2018年11月10日（土） 13:00～17:00

【会 場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審 査 員】

審査員長：植田 実（編集者）

審 査 員：高橋 堅（高橋堅建築設計事務所）

長田 直之（ICU 一級建築士事務所／奈良女子大学准教授）

能作 文徳（能作文徳建築設計事務所／東京電機大学未来科学部建築学科准教授）

米田 明（アーキテクトン／京都工芸繊維大学教授）

司会進行：城戸崎 和佐（城戸崎和佐建築設計事務所／京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科教授）

01.宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科

02.茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム

03.大妻女子大学 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻

04.神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース

05.関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース

06.共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース

07.慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科

08.工学院大学 建築学部 建築学科

09.工学院大学 建築学部 建築デザイン学科

10.工学院大学 建築学部 まちづくり学科

11.国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系

12.駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース

13.芝浦工業大学 工学部 建築学科

14.首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース

15.昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース

16.女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

17.多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース

18.千葉大学 工学部 都市環境システム学科

19.千葉工業大学 創造工学部 建築学科

20.筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域

21.東海大学 工学部 建築学科

22.東京大学 工学部 建築学科

23.東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科

24.東京藝術大学 美術学部 建築科

25.東京電機大学 未来科学部 建築学科

26.東京都市大学 工学部 建築学科

27.東京理科大学 工学部第一部 建築学科

28.東京理科大学 工学部第二部 建築学科

29.東京理科大学 理工学部 建築学科

30.東洋大学 理工学部 建築学科

31.東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

32.日本大学 芸術学部 デザイン学科

33.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース

34.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース

35.日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース

36.日本大学 理工学部 建築学科

37.日本大学 理工学部 海洋建築工学科

38.日本工業大学 工学部 建築学科

39.日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科

40.日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻

41.文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科

42.法政大学 デザイン工学部 建築学科

43.前橋工科大学 工学部 建築学科

44.前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科

45.武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科

46.武蔵野美術大学 造形学部 建築学科

47.明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース

48.明治大学 理工学部 建築学科

49.ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース

50.横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP

51.早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科



01 集合住宅

釜川地域は、自然に人々が寄り添うことで街を構成する庭のような空間です。この集合住宅では釜川の庭が手足を伸ばして集合住宅を囲むように連動します。釜川の庭に集合住宅が加わったことによる新しい街の見え方を提案します。



黒田 紗綾 (くろだ さや) 宇都宮大学
地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:大嶽 陽徳
指導教員名:金野 千恵

教員推薦コメント 地方都市の中心市街地にたつ集合住宅について、四周に十分な空地を確保しつつ住棟を分散配置して、さまざまな性格の外部空間を生み出したうえで、そうした外部空間を各住戸の全方位で享受できる豊かでリアリティのあるものとして設計していることを評価し、推薦致しました。〔大嶽 陽徳〕



02 海と暮らすセカンドハウス

多くの海水浴場がある海岸沿いにつくマリンレジャー指導者のためのセカンドハウス。半屋外スペースを各所に配置し風の通り道を増やすことで、土地柄である海と潮風を五感全体で感じられる住宅とした。緩やかにカーブした屋根の下では、海の状態を観察する展望台や、地域住民のためのマリンレジャー教室、カヤックなどの用具の整備場など、海と暮らすための様々な営みと場所が紡がれる。



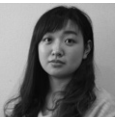
山田 翔馬 (やまだ しょうま) 茨城大学
工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:稲用 隆一
指導教員名:稲用 隆一、一ノ瀬 彩、久野 靖広

教員推薦コメント 本作品は、コンパクトにまとめられた居室群と海との暮らしに応じた屋外スペースとが特徴的な屋根で覆われた開放感あふれる大らかな空間構成を実現しており、具体的な生活像を含めて表現されている点が評価された。〔稲用 隆一〕



03 緑地の再生と〇〇併用住宅の設計

閑静な住宅地にかつて存在した豊かな緑陰空間を再生しながら、地域の人々のニーズに合う商空間と憩いの場となる空間を二つ、またプライベートもあるが適度にパブリックな部分も共存する豊かな住空間を提案した。〔居心地の良い商空間〕と〔豊かな住空間〕を吹き抜けて繋げるにより内でも外を感じ、外でも内を感じられる建物を目指した。



三澤 奈央 (みさわ なお) 大妻女子大学
社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:松本 暢子、尾中 信夫、柳 秀夫
指導教員名:松本 暢子、尾中 信夫、柳 秀夫

教員推薦コメント 湾曲した敷地に二つの軸線を設けることで〔光庭・住宅・SHOP・屋上農園〕を展開させ、住宅地域のヒンジとなるシンボル光景を作り出している。成熟したデザインの途上にあり、可能性を秘めた素朴な作品である。〔尾中 信夫〕



04 50人が暮らし、50人が泊まれる、この先の暮らしの場

集合住宅には多くの人が集まって暮らしている。言わば「小さな街」である。その街らしさは外観だけから作り出されるものではないはずだ。その時にもし、住人一人一人がエネルギーを共有する意識を持つことができた時どのような豊かさが生まれるのだろうか。そんな暮らしができた時、集まって暮らすことの意味を見出せるのである。この集合住宅ではそんな新しい暮らしを提案する。



佐塚 将太 (さづか しょうた) 神奈川大学
工学部 建築学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:曾我部 昌史、吉岡 寛之、佐々木 龍郎、岡村 品義、渡瀬 正記
指導教員名:曾我部 昌史

教員推薦コメント 個性的な特徴をもった暮らしの環境を創出することを求めた。佐塚君の提案では、居住区画とサービス・商業区画とに有機的な関係を持たせ、個の居住環境にも配慮をしつつ立体化できていることが評価された。〔曾我部 昌史〕



05 2人が住む2つの家

2つの家は1つの形から切り抜かれ、1つの家は切り抜かれた形が家、切り残った部分は外部となり、もう1つはその反転した形が家となる。平面的に反転するだけでなく断面的にも反転することで同じようで同じではない空間ができる。離れた2つの家を2人は行き来しながら生活をし、生活の中でふとした時1つの家と感じられるような家とした。



大崎 雅也 (おおさき まさや) 関東学院大学
建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:村山 徹
指導教員名:粕谷 敦司,奥野 公章,村山 徹

教員推薦コメント 2つの場所に、2人のための住宅を設計するという課題に対し、すまい方だけでなく、建築のありかたとして応えた作品。同じ形状を内外反転した2つの住宅は、敷地の特性を鮮やかに空間化することに成功している。〔粕谷 淳司〕



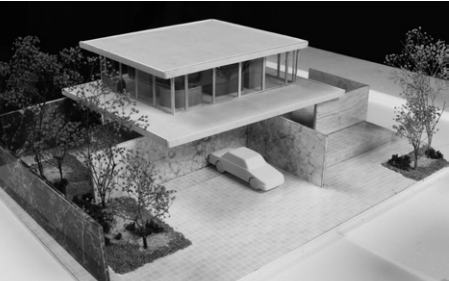
06 『つながり』を育む住まい

桜並木の美しい緑道が続く場所に建つ二世帯住宅。その緑道と連続性を持たせるような中庭兼エントランスを設け、二世帯の交流スペースとした。分棟はプライバシーは守られるが、家族間の距離ができてしまいがちだ。それらは大きな開口と視線の抜けで解消する。道路に面して親世代が営む小さなカフェがあり、古くからの友人はもちろん、通りかかった人も立ち寄れる温かい場所となっている。



座間 彩実 (ざま あやみ) 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:工藤 良子
指導教員名:工藤 良子

教員推薦コメント 『スキマ』と『ズレ』分棟に発生する路地的空間や視線の抜けで2世帯住宅における心地よい距離感を探ろうとした作品です。2世帯で住む楽しさを共有する場が街を楽しむ手がかりとなっている点に好感が持てました。〔工藤 良子〕



07 近代名作を再構成する

現代の住宅街にミースの設計手法を再構成するにあたり、前期の作品に見られる壁による空間構成と、後期の作品に見られるガラスの一室空間での「ユニバーサル・スペース」を使い分けることで、ミース作品が持つ透明性・流動性と、近隣からのプライバシー確保を共に実現させた。また、開口部のスチールサッシが鉛直力を負担し、天井まで届かせた設備コアに水平力を負担させることで、無柱の空間を可能とした。



加藤 里菜 (かとう りな) 慶應義塾大学
環境情報学部 環境情報学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:坂 茂
指導教員名:坂 茂,城所 竜太,原野 泰典

教員推薦コメント ライト、ミース、コルビュゼ、アアルトの4人の建築家によって設計された住宅のうち一つを選択して分析を行い、建築家とその敷地でどのような設計手法で住宅を実現するに至ったかを明らかにし、その設計手法を現代の郊外の敷地にあてはめて提案する課題です。巨匠による住宅では配慮する必要がなかった周辺環境やプライバシーを検討しつつ、当該敷地における法規制も考えながらの提案が求められます。〔原野 泰典〕



08 水辺に建つクリエイターを目指す若者のドミトリー

クリエイターのそれぞれの個人スペースをギャラリーが繋ぐことを考えた。そのギャラリーには、そこに住むクリエイター達の作品を飾り、そうすることでお互いに刺激を与え合い、コミュニティが生まれ、様々なアイデアやインスピレーションを沸かせることができる。従来のドミトリーとは違った価値観を与え、今までの生活にはなかった刺激を毎日感じることができる空間を作った。



豊栄 太晴 (とよさか たいせい) 工学院大学
建築学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:木下 庸子 指導教員名:木下 庸子,樫原 徹,初田 香成,大塚 篤,阿部 俊彦,今村 幹,片桐 和也,高塚 章夫,馬場 兼伸,林 孝行,細谷 功,松葉 邦彦

教員推薦コメント 交差しながら連続する二層分の二本のリニアなコモン空間と、そこに差し込まれる個人のボックスから成る集住建築です。コモン空間の吹き抜けに個人のボックスが顔を出し、そこがセミパブリックな領域となっています。〔木下 庸子〕



09 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

須賀町の窪地には、須賀神社を中心にお寺と住宅が密集している。しかしそれらは閉じこもり、かつて坂に溢れた賑わいは失われた。そこで、住戸内を貫通するガラスBOXがまちの気配を取り込み、ざわめきに包み込まれるような集合住宅を提案する。モノを直接共有するのではなく、気配を共有する空間が、これからの都市の生活を豊かにする住まいなのではないだろうか。



木元 那奈 (きもと なな) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:木下 庸子 指導教員名:木下 庸子,西森 陸男,藤木 隆明,星 卓志, Kearney Michael, 金箱 温春,押尾 章治,沢瀬 学

教員推薦コメント 対象地域は古くから寺院が密集しているエリアで住宅と寺院が混在している。古くは寺院のための参道があったところも今では暮盤の目状態の道路に整理されてしまっている。木元さんのアイディアは既存の道路とは別に、斜面上の集合住宅の中央に共用の立体路地を設けそれが寺院への参道のメタファーとなっている。変化に富んだ立体的な構成が魅力的である。〔西森 陸男〕



10 外のある家

敷地は川、公園、住宅街に面している。そこには、川沿いの歩道でジョギングをする人、河川敷で犬と戯れる人、公園で遊ぶ人、ベランダで洗濯物を干す人がいて、敷地の周囲は人の営みで溢れている。この敷地で、人と人との関わりが生まれる場面に出会い、その素晴らしいさを感じた。そこで、周囲にいる他人を「外」と捉え、敷地の良さを感じられるように「人の営みが見える家」を設計した。



森下 かん奈 (もりした かな) 工学院大学
建築学部 まちづくり学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:冨永 祥子 指導教員名:西森 陸雄,境野 健太郎,木島 千嘉,熊木 英雄,小島 光晴,齋川 拓未,藤田 雄介,矢板 久明,山門 和枝,中道 淳

教員推薦コメント この住宅の魅力は、諸室をぐるりと巡る廊下のような空間です。機能を拡張し、空間同士を繋ぎあわせ、領域に食い込みながら延びるこの廊下が、外と内・内と内を巡る旅へと住み手を誘い、多様さを拡張しています。〔冨永 祥子〕



11 子育て世代の職住近接住宅

「地域」「家族」「仕事」「暮らし」が日常の中で快適に交錯するような空間を考えた。商店街と公園に挟まれた角地の特徴を活かし、三方に開き一方を閉じる単純な二つのコの字型で、公・私を表し組み合わせ、空間の内外により複雑な方向性が生まれることを期待した。様々なレベルの床や吹抜けにより、建物のどこにいてもいろいろな動作や音を温かな気配として感じることができるだろう。



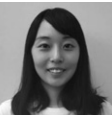
増島 絢美 (ますじま あやみ) 国士舘大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:南 泰裕,伊藤 潤一,須川 哲也,鈴木 丈晴,高階 澄人,吉本 大史
指導教員名:高階 澄人

教員推薦コメント 増島さんの作品は、商店街と公園に挟まれた敷地の特性を、よく読み込んで全体のアイデアがまとめられており、スケール感も妥当で図面がしっかり描けていたことから、優秀作品として選ばれました。〔南 泰裕〕



12 ダガヤサンドウに住むとしたら

子供と親の寝室は別々であることが多く、共働き世帯の増加とともに子供と接する時間も減っている。そこで、子供の成長を見守る集合住宅を設計した。子供は見守られながらも自分だけの空間をもち、自立していく。子供同士の距離が近いことでお互いに関心を持ち、そこから子供同士のつながりが生まれる。そして、子供を介して家族同士が交流し、段々とこの集合住宅のカタチをつくっていく。



竹内 千晶 (たけうち ちあき) 駒沢女子大学
人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:太田 清一,茂木 弥生子
指導教員名:太田 清一,茂木 弥生子

教員推薦コメント 新旧が混在するダガヤサンドウに若い世帯の集合住宅が計画された。集合住宅は中庭を囲んで配置される。各戸から突出したあるいは外部から挿入されたような子供部屋。その空間が集住の風景と機能を魅力的にする。〔太田 清一〕



13 様々に変化する生活シーンを考えた住宅

毎日決まった時刻に起き、いつもの電車に乗る。私たちは同じ毎日を繰り返す。しかし子どもの頃を思い返せばその生活は変化に富んでいた。それは想像力と日々の新しい発見に溢れているからである。住む人が家の中で居心地のいい空間を発見し、どのように使うかを想像して楽しみにしたり、実際に試してみたりすることで、より多様な生活シーンが生まれるような住宅を考える。



車田 日南子 (くるまだ ひなこ) 芝浦工業大学

工学部 建築学科／3年

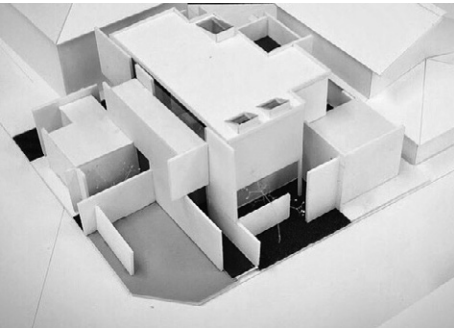
課題出題時学年:2年

出題教員名:郷田 修身

指導教員名:郷田 修身

教員推薦
コメント

三つのコアとそれに支えられる二つの六角形の屋根という単純な構成からできている住宅です。コアは敷地内外の樹木とのつながりを考えながら配置されており、六角形の屋根の下に周囲に溶け込むようなりビング空間をつくっています。〔郷田 修身〕



14 名作から考える

「住空間における最高の質は静けさにある」ルイス・バラガンはそう語った。本設計では、バラガン自邸から読み取った「切り取る壁」と「奥行きを生む壁」の要素を現代住宅に取り入れた。2種類の壁の隙間に生まれた空間には、都市の喧騒を逃れた穏やかで静かな時間が流れる。



田原 玄嗣 (たはら げんじ) 首都大学東京

都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:山崎 健太郎、富永 大毅、宮内 義孝、猪熊 純

指導教員名:富永 大毅

教員推薦
コメント

田原君の作品は、バラガン邸を参照し、空間の構成の特徴を丁寧に読み取り再構成したもので、単なるコピーにならずに、世田谷の敷地にうまくフィットさせ、大変レベルの高い設計となっていたので、推薦しました。〔猪熊 純〕



15 「私たちの長屋」 ―三宿に暮らす―

"空間を無限に彩る"

課題となった敷地は、三軒茶屋という都市の中で木々に囲まれ、そこに太陽の光が射し込んでまるで異世界のような小さな空間でした。この空間をもっと華やかにしたいと考え、家自体を雨を彩る傘にしました。これにより一本の傘に家族が入って守られているような、また季節や天気によって魅え方が変化する長屋を提案します。



山崎 理莉子 (やまさき りりこ) 昭和女子大学

生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:杉浦 久子

指導教員名:御手洗 龍

教員推薦
コメント

高い木々の間から差し込む光や土の上に広がる湿度感、そしてそこに集まって住む暮らしの包み方など、独特の感性と創造性に溢れる作品です。構造への展開力やシーンの描写など、全てに可能性を感じさせてくれました。〔御手洗 龍〕



16 集合住宅計画・景観デザイン

新百合ヶ丘は「芸術のまち」と言われており、新百合ヶ丘駅周辺では恵まれた環境を求め多くのアーティストが移り住んでくる。住むアーティストが制作・活動がしやすくお互いを刺激し合い視線を合わせたくなる、芸術がより親しめる長屋集合住宅を提案する。



岩渕 愛 (いわぶち あい) 女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻／4年

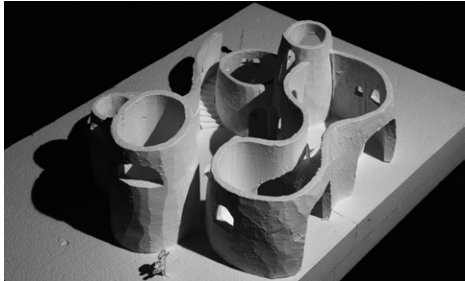
課題出題時学年:3年

出題教員名:飯村 和道

指導教員名:飯村 和道、下田 倫子

教員推薦
コメント

岩渕さんは、非常にまじめで、探究心をもって新しいアイデアを提案しようと努力を続け課題を完成させています。その結果、どの課題でも優秀な成績を収めており、特に住空間に関心をもっており推薦致します。〔飯村 和道〕



17 《風景の中の住空間》 ～一家がくつろげる週末住宅～

敷地は美しい棚田や小川等、豊かな自然が望める山村です。そこに建築家一家のための週末住宅を建てます。週末住宅なのだから、楽しさを重視したいと考え、自由な形の土で出来た家を作りました。土壁にすることで、家が敷地の豊かな自然と馴染みます。高低差のある敷地に合わせ、家の天井と床もデコボコさせて、家の中と外をくるくる回りながら楽しく過ごせる家を目指しました。



遠藤 恵美子 (えんどう えみこ) 多摩美術大学

美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース／2年

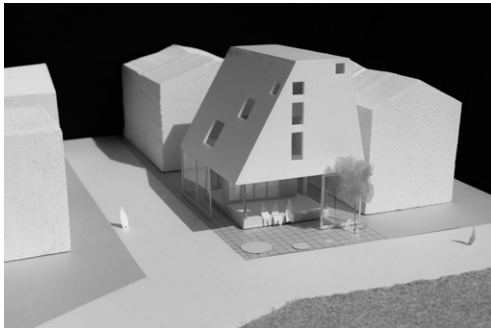
課題出題時学年:1年

出題教員名:田淵 諭

指導教員名:田淵 諭、松澤 稔、米谷 ひろし、湯澤 幸子、田嶋 豊、高橋 靖一郎

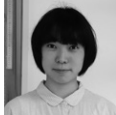
教員推薦
コメント

草むらに突然現れる原始的週末住宅。古来の版築工法等で計画されたこの週末住宅は、私たちの住宅概念を軽く吹き飛ばし、こどもの時に誰でも感じたであろう秘密基地的ワクワク感と空間体験の楽しさを評価しました。〔田淵 諭〕



18 MAD City House

最近では人々が心に壁をつくり近所付き合いが希薄になってきている。そこで生活の延長線上に人と緩く繋がる空間をもつ「私の家」を提案する。開放的な一階で私は家事や仕事をしながら町の人たちと気軽に声をかけ合える。そんな、ちょっとした時間の共有が私の生活を豊かにし、心の壁を低くできると考える。境界線を緩やかにしたこの家は新しい出会いを生み、人々のつながりを広げていく。



藤原 裕子 (ふじわら ゆうこ) 千葉大学

工学部 都市環境システム学科／3年

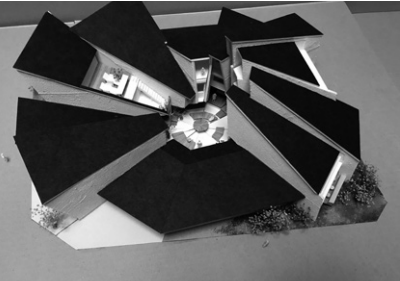
課題出題時学年:2年

出題教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

指導教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

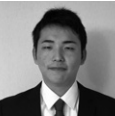
教員推薦
コメント

この作品は、東京のベッドタウンである松戸に計画された小さな住宅です。本作品は、個人の生活とまちに対する開き方を無理なく統合し、形態と利用の関係をバランス良く設計していることが評価されました。〔森永 良丙〕



19 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計

集まって住もう楽しさとは何だろうか？その問いに対して回答を持つ集合住宅は今日にはない。団地は南側に庭がある四角い箱の三角屋根が並び、マンションは高層化が進み、楽しさとは無縁である。そこで、古来の集団生活の場である環状集落にあった、暖かい光が降り注ぐ広場を囲い、火を焚き暖かい光に集まる生活を、今日の集合住宅に取り入れることで、集まって住もう楽しさを表現したい。



堂ノ下 和希 (どうのした かずき) 千葉工業大学

創造工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:石原 健也 指導教員名:佐々木 珠穂、石原 健也、遠藤 政樹、多田 修二、中川 純、名和 研二、河内 一泰

教員推薦
コメント

ちょっと不思議なかたちをした集合住宅。10戸の住民が中庭で顔を合わせ、全戸に光りが差し込み、風が通り抜ける。こうした極めて真っ当に設定された条件が、そうさせた。凡庸な芸術家の作品である。〔遠藤 政樹〕



20 住み継げる家

歴史が浅く、人の生活感が乏しいつくばでの建売住宅の設計において、設計する住宅3棟自体が、つくばの町に暮らしを表出するような設計をすることが、つくばで暮らす上でも、町にとっても良い影響をうむと考えた。設計した3棟は共通して暮らしの表出を植物を基準に構想した。それぞれが植物と空間の喜びを享受しあいながら、つくばの町で豊かに暮らす。



染谷 美也子 (そめや みやこ) 筑波大学

芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:花里 俊廣

指導教員名:花里 俊廣、加藤 研

教員推薦
コメント

フージャースアベニューと筑波大学の産学協同プロジェクトで、開発中の住宅地の一角に実際に建設される3棟の建売住宅を考える課題である。建物ボリュームの分割と配置、屋根勾配などを工夫して3棟で一体的な環境を提案した点を評価した。〔加藤 研〕



21 日常の大きさ・カタチ・向き ○○hut

コンパクトで方向性をもつタンスの引き出しのような、動かすことで外部空間との繋がりがうまれる住宅を提案した。1階部分の床を東西2つの庭へ引き出すことで社会や町と交流ができるパブリックな空間ができたり、プライベートな庭がうまれたり多様に化する。2、3階は別々の分野の仕事をするクリエイター夫婦が適度な距離感で生活ができるよう計画した。



星野 唯 (ほしの ゆい) 東海大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:渡邊 研司、山崎 俊裕、吉松 秀樹、古見 演良、河内 一泰、納谷 新、白子 秀隆、山口 紗由、山下 貴成、佐屋 香織 指導教員名:古見 演良

教員推薦コメント 時間と共に変化する住要求に対して、住空間の機能・スケールにどのような可変性や融通性を確保し得るかは根源的なテーマである。本設計は住空間の一部を移動可能な装置にして、このテーマに果敢に臨んだユニークな提案といえる。(山崎 俊裕)



22 百草団地 職員住宅改築計画

東京郊外の斜面を活かした名作、百草団地を持続可能な団地へと再生する。既存の団地は尊重しつつも多世代を想定した住戸プランへとリノベーションを行う。その周辺には個性を持たせた新築住戸を配し、それぞれの性格が溢れ出した広場をコンスベースとして提供することで既存の暮らしがより開かれる。既存と新築が一体となって多世代間の濃密な交流を生み、百草団地が住み継がれる。



西田 静 (にしだしずか) 東京大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:大月 敏雄 指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、井本 佐保里、垣副 正樹、金野 千恵、武井 誠、萬代 基介

教員推薦コメント 知る人ぞ知る斜面型名作団地の集合住宅の周囲に、既存住宅と社会と自然を取り結ぶ「接続詞的住宅」をアネックス的に挿入することによって、団地に新たな息吹をもたらそうとしている点が、高く評価された。(大月 敏雄)



23 シェアハウス／○○が集まって棲む家

ジュエリー職人を目指す学生のためのシェアハウスを提案する。ここで言う「JEWELRY」とは、金や銀など希少価値の高い素材で作られた装飾品を意味する。学生らしい何にも縛られない個性的な作品(学生たち)を、このジュエリーボックスに入れることで、そこにより輝いた空間が生まれる。学生たちが集い、共に生活する「JEWELRY」というシェアハウスである。



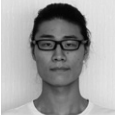
森 千尋 (もり ちひろ) 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:瀬川 康秀 指導教員名:瀬川 康秀、前鶴 謙二

教員推薦コメント ジュエリー職人を目指す学生のためのシェアハウスです。街に開放された工房群では、まだ未熟な作品群が放つ鈍い光沢と、学生達の製作への弛まぬ姿勢が、光として街に移ろうシェアハウスとなることを評価しました。(前鶴 謙二)



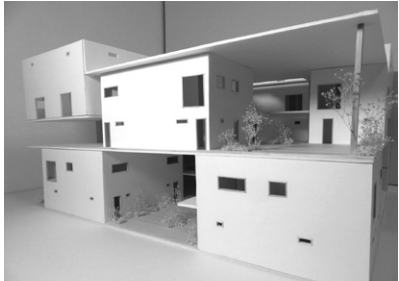
24 集合住宅I

1枚の地面に1つの村のようなコミュニティーが出来上がり、それが積み重なることで、全体として街のような集合住宅をつくり出す。足元に構える層の広がりや都市の高層化によって離れてしまったヒトと地面の関係を取り戻し、頭上に広がる層は洞窟に暮らし地球とより密接な関係を持っていた先祖の生活を思い起こさせる。ヒトは地面から離れて暮らすことはできない。そう信じたい。



蓮溪 芳仁 (はすたによしひと) 東京藝術大学
美術学部 建築科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:飯田 善彦、ヨコミゾマコト、小林 良平 指導教員名:飯田 善彦、ヨコミゾマコト、小林 良平

教員推薦コメント 与件を丁寧に読み解き、構築的かつ精緻に密度を高めた秀才型の作品と、ユニークなアプローチで、多少荒削りではあるが発見と創造性に満ちた天才型の作品とがあるとなれば、蓮溪君の作品は明らかに後者である。(ヨコミゾマコト)



25 集合住宅の設計

集合住宅でコミュニティを形成する際、居住者間のプライバシーが守られていることが前提となる。そこで、住戸をメゾネット型にし、生活の中の《騒》と《静》の空間を各階に振り分け、それぞれの層に《コミュニティをつくる》《プライバシーを守る》という役割を設けた。2つの異なる空間を完全に分けることで、居住者が自分のスペースを守りながら、関わり合いを作れるようになる。



米持 みなも (よねもち みなも) 東京電機大学
未来科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山田 あすか 指導教員名:中山 薫

教員推薦コメント 本作品は、敷地周辺を歴史的な移り変わりを読み取り、コミュニティの在り方を熟考し配置計画をし、生活における「騒と静」を分析しプライバシーとパブリックを、共用部とテラスの床を「コミュニケーション」をキーワードとし積層させ吹抜けで繋いでいく意欲的な作品です。(中山 薫)



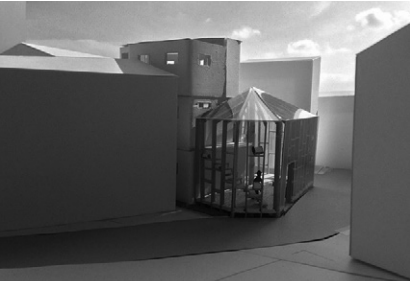
26 4世代住宅を作れ

ライフスタイルも価値観も異なる様々な世代の人が、互いに生活を尊重しながら相互扶助し合う。その暮らしを子の世代、孫の世代まで継承し維持していく。そんな彼らが集まって住むことで生まれる日常的な会話やお互いの支え合いなどを、各機能の個性的な「ユニット同士の繋がり」「重なり合う部分」「できる隙間」で作り出すことを提案する。



寺島 瑞季 (てらしま みずき) 東京都市大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:手塚 貴晴 指導教員名:手塚 貴晴

教員推薦コメント 四世代住宅を作れという問いに対して、極めてストレートにアーバンデザインの観点から答えた作品。お隣とのノスタルジックな関係性を織り込みつつも、明快なダイアグラムを極めてモダンにまとめあげている。(手塚 貴晴)



27 根津に住む

敷地は、文学者ゆかりの根津。なかでも特徴的な「へび道」に面している。へび道に沿って配置した本棚を架構とする書物の空間は、まちの図書室であり古本屋であり、住人たちの趣味の空間である。書物の空間の内側には住居がありその奥には小さな光庭がある。根津の文脈と地形を感じながら過ごす住まいの提案である。



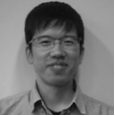
八木 このみ (やぎ このみ) 東京理科大学
工学部第一部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:石橋 敦之、薩田 英男、船木 幸子、細矢 仁、峯田 建、熊谷 亮平、岩澤 浩一 指導教員名:岩澤 浩一

教員推薦コメント 課題では、まちとの関わりが生まれる住空間とライフスタイルの提案を求めています。根津の文脈や地形を手がかりに住人たちが書物に親しみながら根津の地域社会を未来に繋げていく可能性を提示した所を評価した。(岩澤 浩一)



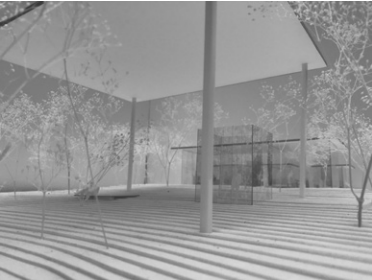
28 金町の住宅

家族が気持ち良く過ごせる空間を考えた。朝起きて二階の洗面所で朝日を浴びながら歯を磨き、一階で外の空気を感じながら食事をとる。壁をできるだけ減らし、各階にテラスを設けることで開放感をたっぷり味わう空間を作った。住宅で一番大事なことは、住む人のことを考えて設計することだと思う。見栄えや機能以上に、住む人の心地良さを大切にしたい。



山本 優史 (やまもと ゆうじ) 東京理科大学
工学部第二部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:長谷川 祥久、三戸 淳、栢木 まどか、稲山 貴則、常山 未央 指導教員名:常山 未央

教員推薦コメント 細長い「隙間」に向かって住まいを開き、そこにテラスを立体的に設けることによって、高密度な商店街沿いに建つ住宅として光・風環境やプライバシーに考慮しながら街との接点を作り出したことが評価されました。(常山 未央)



29 鎌倉のゲストハウス

緩い傾斜地を利用し、屋根の大きさと高さの違いでプライベート感に違いをもたらした。その屋根の高さに対して、空間を構成する「ヤネ・カベ・ユカ」の有無やその距離感によって、空間そのものを利用者に意識させる。また、鎌倉の街の力を信じ、このゲストハウスには「寝る」機能を装備させ、食事や遊びを街でしてもらう「鎌倉の街全体でのおもてなし」を提案した。



木村 哲 (きむら てつ) 東京理科大学

理工学部 建築学科／2年

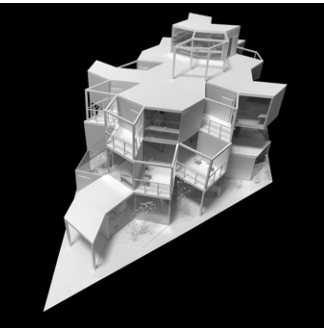
課題出題時学年:2年

出題教員名:垣野 義典

指導教員名:大成 優子

教員推薦
コメント

壁、床、屋根、そのスケール感を徹底的に検証することで場を描き出した案。ベッドの大きさギリギリの場や、天井高8mの大きな屋根がかかる内部でも外部でもない場が、互いに深く呼応する魅力的な場となっている。[大成 優子]



30 家族をリスタートする住宅

近年、人々の暮らし方は様々に変化しつつある。今回の課題では血縁関係がほぼ無い人々が一緒に暮らすことが想定された。私は磯崎新著、見立ての手法より「ま」を構成する9つの要素を援用し空間の設計を行った。「ま」により構成された空間で自己と他者と、そして社会との心地良い「ま」を生み出す。現代社会を生きる人々にとってこの「ま」は、必要なのではないだろうか。



國本 真美子 (くにもと まみこ) 東洋大学

理工学部 建築学科／3年

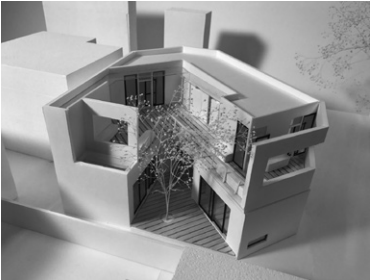
課題出題時学年:2年

出題教員名:篠崎 正彦

指導教員名:篠崎 正彦

教員推薦
コメント

複雑な家族のための住宅であるが、数年先でさえ誰ががどのように住むことになるか予想しがたい設定である。國本さんの提案は、変化していく様々な生活を受けとめる事ができる空間の強さと柔軟性を兼ね備えている。[篠崎 正彦]



31 三世代五人家族の家

屋上庭園と中庭で部屋を繋げることで、「みんなの庭」を実現する。そして、みんなの庭にいるんな居場所を作る。屋上庭園から中庭を見えることで、アイコンタクトのきっかけを作る。敷地東側の木と南側の竹を借景する。



劉 文彪 (りゅう ぶんひょう) 東洋大学

ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科／2年

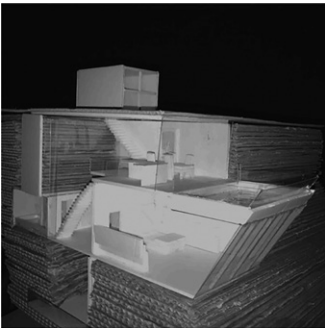
課題出題時学年:2年

出題教員名:内田 祥士

指導教員名:内田 祥士

教員推薦
コメント

劉君は、自立を望む祖母の生活への配慮を契機に、家族の共用空間から2階の個室群への移動過程に、中国の四合院を参照しつつ、屋外化されたデッキを導入し、家族と個人の間に新しい関係を見出そうとしています。[内田 祥士]



32 『私の舍』

この住宅は永い年月をかけて形成された壮大な地層と広大な太平洋が織りなす屏風ヶ浦沖合に計画されたギャラリー兼住宅です。崖の上に小さなエントランスだけを設置し、住宅自体を地下に隠すことで住空間に大きな広がりを感じさせるということを主題に考えました。そして屏風ヶ浦という土地のダイナミックなスケールを住宅に散りばめ、それを誇張させる工夫を凝らしています。



小林 遼 (こばやし りょう) 日本大学

芸術学部 デザイン学科／3年

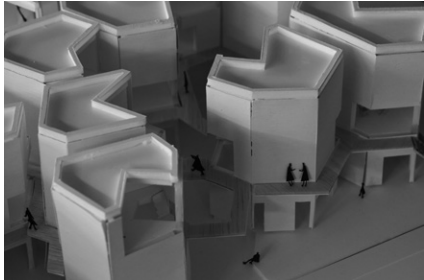
課題出題時学年:2年

出題教員名:熊谷 廣己

指導教員名:熊谷 廣己

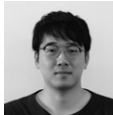
教員推薦
コメント

構想力が魅力的な作品です。住空間という日常性の中に埋没しないで、壮大な世界に立ち向かいたいという若者のハートを感じます。空間の身体性と創造性を学びながら、どこかビッグ・ピクチャーを発想の拠りどころにしている姿勢が秀逸です。[熊谷 廣己]



33 街に開く集住体 ―神楽坂の集合住宅

この集住体で路地は住人の所有物である。住人の都合や気分で開いたり閉じたりする。日々刻々とそこを通る人の道筋は変わる。もちろんそれは地域の人だけでなく、集住体の人間も同じことが言える。家までの迂回の路地で発見できる景色や、迂回しなければ出会わなかったであろう住人同士の出会い、そんな寄り道が許容された集合住宅を設計する。



伊藤 拓海 (いとう たくみ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築総合コース／3年

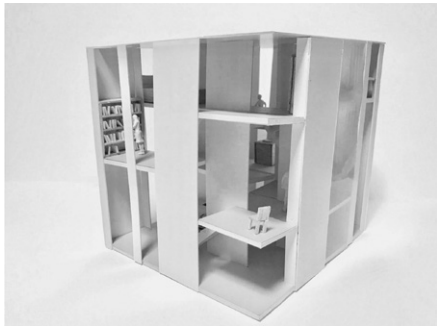
課題出題時学年:3年

出題教員名:内村 綾乃

指導教員名:渡邊 詞男

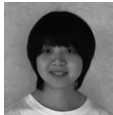
教員推薦
コメント

路地をテーマにした計画の中でこの案は直交座標でなく六角形の配列で露地をつくり、壁を可動させ、路地を変化させた。可動壁が路地の経路を制御することで迷路のように新しい発見を促す仕掛けを計画した点を評価した。[渡邊 詞男]



34 8mCUBE―8m立方の、ある一つの秩序を持った住宅空間を設計する

壁で仕切られた住宅では、家族間の個々のつながりは薄れると感じる。薄い壁と隙間をストライプ状に配置することで、いろいろな距離感をつくり、軽やかに連続する空間を生み出す。変化する音・光・風によって壁の表や裏に異なる場所ができ、家族の互いの姿が垣間見られることで、個々のつながりをつくる。自然と共に家族の存在を感じながら、ゆるやかにつながる暮らしが始まる。



光楽 瑠子 (みつら ようこ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築デザインコース／3年

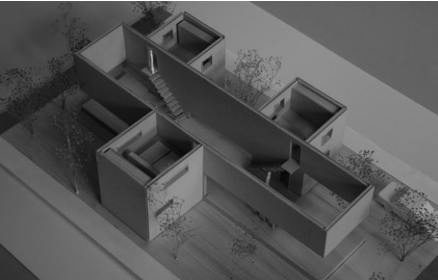
課題出題時学年:2年

出題教員名:泉 幸甫、亀井 靖子

指導教員名:泉 幸甫、亀井 靖子

教員推薦
コメント

リズムカルな隙間のある壁を何枚か重ね、また床にレベル差を設けるというシンプルな操作によって、一見する以上の、生き生きとして豊かな空間を作り、建築の本質である秩序を持った空間を作ること成功している。[泉 幸甫]



35 ○○の住宅

共働きの両親と子供が繋がる住宅。LDを暮らしの中心とし、その周りにはプライベートスペースを設けた。また、外に開けた空間は様々な庭により開放感と安心感を得られる。異なるライフスタイルをもつ個々の生活を家族と共有でき、コミュニケーションをとれる、気配を感じる空間とした。家族、建物、外部との「つながり」を強く考えた住まいを提案する。



高嶋 春葉 (たかしま つくは) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:渡辺 康、木下 道郎

指導教員名:渡辺 康、木下 道郎

教員推薦
コメント

BOX状の個室や用途室を隣地に近く設けることで、共同で使うLDを隣地から離し、間に庭を作っている。さらにそのBOXがLDの構造をも支えているのでオープンな空間を成立させている構成の対比が見事。[渡辺 康]



36 住宅

谷中は、下町の風情が残り、人の温かさが感じられる街である。そこで、「人と人」「人とモノ」「モノとモノ」をつなぐ住宅を提案する。五層のスラブと三本の壁柱に区分された様々な表情をもつ空間は、「パブリックとプライベート」「外と中」「明と暗」を緩やかにつなぐ。前面道路の向かい側の公園と連続したビロティは、地域の憩いの場となり、活動の輪を家族から地域へと広げていく。



久保 開陸 (くほ かいり) 日本大学

理工学部 建築学科／2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:佐藤 慎也、山中 新太郎

指導教員名:都留 理子

教員推薦
コメント

共有空間を地域に提供する住宅。3枚の壁柱と抜けの大きな5枚の水平面が、住宅全体の連続性を保ちつつ緩やかに分節している。パブリックな下階から上階へと徐々に親密度を増していく、魅力的な建築が実現している。[都留 理子]



37 親水公園と美術館に隣接する都市型集住体

集合住宅の現状として個々の住戸が分離し住戸間の交流は乏しい。個人の生活は独立し近隣住民との関わりは決して盛んであるとは言えないだろう。都市における「集まって住むこと」による住戸の独立性とコミュニティの関係、これからの住まいにおける共有のあり方を、大きな1つの屋根の下に住み、本を共有することのできる内側に開いた空間「うちがわてらす」により提案する。



小山田 駿志 (おやまだ しゅんじ) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:小野 和幸 指導教員名:小野 和幸、川久保 智康、木内 厚子、小林 直明、佐藤 浩平、玉上 貴人、新田 知生、水野 吉樹

教員推薦コメント 本を媒体として世代を問わずスペースを共有することで住まいの空間をシェアする。中庭を覆う大屋根は、採光と通風を促進し環境装置としての役割を持ちつつ、これからの新しいコミュニティの在り方が提案されている。〔小林 直明〕



38 賄い付き下宿・再考

居住空間に、四方をルーバーで囲んだ多用途なデッキを導入させることで、玄関ともバルコニーとも呼べる曖昧な空間を作り出す。それにより、生活が内側で完結せず、積極的にテラスを介して外にあふれだす。それぞれがデッキを介し、さらに室内の共有スペースへといざなわれていく。そんな曖昧な空間が、弁当屋を営む家族と16人の学生に「自然な交流」を生み出すことを期待している。



澤田 恒希 (さわだ こうき) 日本工業大学
工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:小川 次郎、平林 政道、小山 大吾
指導教員名:小川 次郎、平林 政道、小山 大吾

教員推薦コメント この課題では、下宿での生活を通じて地域で暮らすことの可能性を求めました。澤田さんの作品は、4つのデッキを介して住人同士の、住人と大家さん及び地域の人々の緩やかなつながりが期待できる点が評価されました。〔小川 次郎〕



39 地域に開かれたシェアハウス

シェアハウスにおける個人空間を、モノ・コトに応じてつくったボリュームどうしを貫入させて構成した。そのような住人の魅力が詰まった個人空間を完結させるのではなく、共有空間、外部空間へと広げることで、住人どうしや住人と地域の人との繋がりをつくりだしている。凹凸でできた内外の空間が様々な人と多様なコミュニケーションを生み、豊かな暮らしができるシェアハウスを設計した。



瀧澤 拓実 (たきざわ たくみ) 日本工業大学
工学部 生活環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:足立 真、白子 秀隆
指導教員名:足立 真、白子 秀隆

教員推薦コメント 空間を結合させていく図式的な解法に終わらず、床の高さや壁の角度、囲まれる空間のスケールや開き方・閉じ方などを丁寧に調整することで、内外の場所の有機的な関係と豊かな空間体験が巧みにつくり出されています。〔足立 真〕



40 街とくらす集合住宅

人が都市で暮らす時、「街」に対して「集合住宅」に対して、住戸がそれぞれ主体的に関係をもてるようにしたいと考えた。住戸は各々街と直接繋がる出入口を持ち、住戸群の内側では視線が他の集合住宅と交錯する。他者との距離感を暮らすという行為の中で意識した集合住宅である。その為に、各住戸の持つ開口部分の面積、道からの距離、住戸の角度、階数、その空間の用途を比較し分析した。



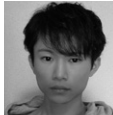
森 菜央 (もり なお) 日本女子大学
家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:宮 晶子、東 利恵、石川 孝重、植木 健一、片山 伸也、寶神 尚史、中川 エリカ 指導教員名:寶神 尚史

教員推薦コメント 「集合住宅」が「街」とともにある状況をつくりだすことが課題テーマである。本案は、両者に対して住む人自身が主体的な関係を見いだすことができる為の形態の操作を重ね、単に開くのではない在り方を提案している。〔宮 晶子〕



41 住まいの設計「都市部に建つ戸建住宅」

とある公園の隣に建つ、活動的な若い4人家族の住まい。生活行為やプライバシーの勾配ごとに独立させた4つのヴォリュームを用意し、それぞれに有効的な向きを持たせ、1つの住宅に再構成した。その際に生じたヴォリューム同士が重なる部分、隙間に差し込む外部、多面的な輪郭が内部で融和し、1日の流れの中で様々な表情をみせ、それ以上の広がりを感じることができる。



松田 航毅 (まつだ こうき) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:井上 揺子、高橋 正樹、久木 章江、谷口 久美子、渡邊 裕子、岩塚 一恵
指導教員名:岩塚 一恵

教員推薦コメント 都市住宅らしい単調な敷地に、プライベート性を備えつつ、住宅内外で柔らかく繋がる視界を作り出す配置計画を行っている。また、時間軸を交えた生活シーンを描いている点を特に評価した。〔岩塚 一恵〕



42 Life Space in Suburbia 一つくばのニュータウンからヴァナキュラーを考えるー

ハウスメーカーの住宅や商業施設が規則正しく並んだ車社会のつくばという敷地に30年後を見据え交流の場となる集合住宅を提案する。住戸ごとに区分された周辺とは裏腹に、コモンスペースを住戸内に取り込むことで住民とコモンが対峙しない。また集合住宅が周辺住民を繋ぐきっかけとなるべく、敷地のどこからでもコモンスペースにアクセスできるようにし、視線と人が抜けるようにした。



木伏 菜々 (きぶし なな) 法政大学
デザイン工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:稲垣 淳哉
指導教員名:稲垣 淳哉

教員推薦コメント 本作品は、大きな家の構成を、商いの複合と半屋外によって崩し、街路を引き込む地上部が、時に地域のコモンズとなる集住である。ニュータウンの退屈とロードサイドの混乱を、軽やかに紡ぎ直す計画に卓抜さがある。〔稲垣 淳哉〕



43 水路のある低層集合住宅の設計

「集まって住む」ということは、帰る場所が同一であること。つまり、住民だれもが共感できる帰属意識が大事である。個の空間を守る壁で遮られ、多様な生活を許容しながらも、共に暮らしている意識を持つためには、屋根群が有効であると考えた。敷地は前橋市内の閑静な住宅地。連なる屋根や敷地に流れる小川が様々な風景をつくり、住人を繋ぐ。そんな自然と共に過ごす集合住宅を提案する。



渡部 泰匡 (わたべ やすまさ) 前橋工科大学
工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:石川 恒夫、石黒 由紀、木島 千嘉
指導教員名:石川 恒夫、石黒 由紀、木島 千嘉

教員推薦コメント 渡部案は併設の高齢者施設との交流が手がかりに、勾配屋根の文節スケールを、住戸と近隣とのプライバシーにも繊細に呼応させることにより、公・共・私が自然に混ざった集落的な雰囲気を作り出すことに成功している。〔石黒 由紀〕



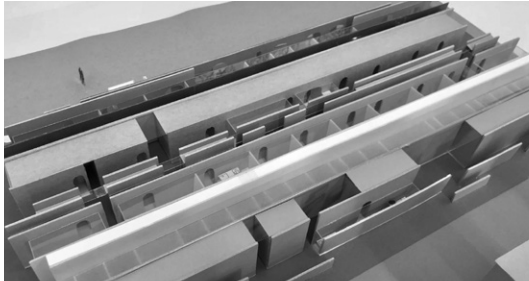
44 前工大学生村 ～集まって住む楽しさのデザイン～

居室に接するように設けたシェアスペースにより内(内部)と外(外部)の境界を曖昧にさせて束縛せずにつながりをもたせる。居室とシェアスペースをつなぐ帯を配置することで、ひとつながりの大きな空間でもあり、小さな空間が集まった空間でもあるようにする。プライベートな空間を保ちつつ人の気配を感じることができる空間である。



阿部 日向子 (あべ ひなこ) 前橋工科大学
工学部 総合デザイン工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:駒田 剛司、江本 開夫、稲見 成能
指導教員名:駒田 剛司、江本 開夫、稲見 成能

教員推薦コメント 学生寮に地域と関わる何らかの機能を備えた「前工大学生村」を考える課題に対し、大きく建築的な構えで応答しつつ、そこに包含される寮生や地域住民の多様なアクティビティーのための場を細やかにデザインしている。〔駒田 剛司〕



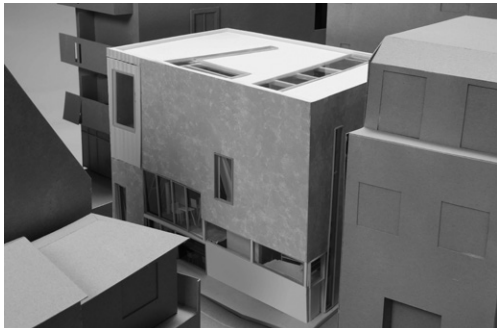
45 働きながら住む10世帯の空間

コンセプトは、「壁に住む」。吉祥寺の商店街に、私は壁を感じた。こだわりのつまった個性的なお店が並び、素晴らしい出会いがあるはずなのに入りづらい。壁は本来、空間を仕切るものだ。ではその壁自体に、住み着くことはできないだろうか。その壁で、店と客、店と店を繋ぐことはできないだろうか。壁に住む10世帯の住空間と、彼らが営む店舗空間を考える。



太田 寛子 (おおた ひろこ) 武蔵野大学
工学部 建築デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡、藤野 高志、岡田 雅人
指導教員名:伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡、藤野 高志、岡田 雅人

教員推薦コメント 「壁に棲む住宅」という言葉が浮かぶ。共同住宅・長方形敷地という条件に、敷地長手に壁を複数挿入し、隣り合う住戸の調整から各世帯の壁長を長く確保し、展開図こそプランであるかのような構想力を評価した。(伊藤 泰彦)



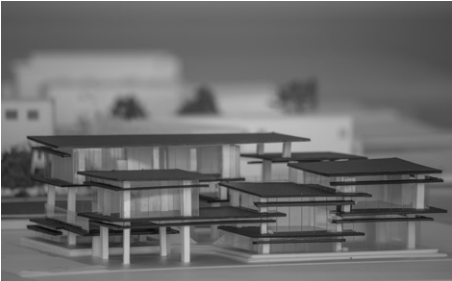
46 東長崎プロジェクト —住宅+αの新しい可能性を提案する—

西武池袋線沿いにある敷地は簡素な住宅街であり、また商業地域としての顔を持つ。小さな商店街には近隣住民と商いをする人々がより密接に関わっていく。この住宅は住宅とカフェの機能を併せ持つ。住宅エリアとカフェエリアを並べるのではなく螺旋状に空間を絡ませることで境界をなくし街の関係性に寄り添った空間体験を作り出す。



矢舗 礼子 (やしき れいこ) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂
指導教員名:青木 弘司

教員推薦コメント 住宅+αの新しい可能性を提案する課題に対して、+αの用途をカフェとし、住宅とカフェを螺旋状に構成することで、多様な空間分節とスケールがつくり出すシークエンスの新たな可能性を提案した秀逸な作品である。(布施 茂)



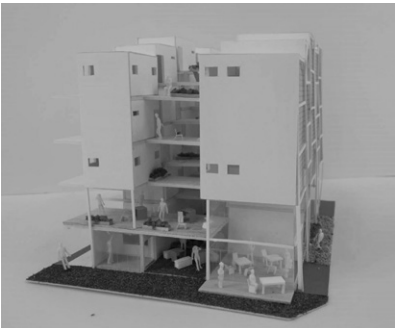
47 今日の役割を持つ共用住宅(シェアハウス)

高齢者や子どものいる世帯が住みやすい住環境というものはどういうものだろうか。本計画ではコミュニティ形成と公園の関係を意識し、設計を行なった。高齢者や子どもにとって長い直階段は怖いものである。ただ段差を減らすだけなら平屋やエレベーター設置でも良いかもしれないが、あえてレベル差を生み出すことで住民とのふれあいが生まれ、良好なコミュニティが形成される。



福田 風太 (ふくだ ふうた) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕
指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

教員推薦コメント 「高齢者とシングルマザーがどのように助け合えるか」をテーマとしています。あえてレベル差をつくるという提案と、その考えを立体的に検証し作品を完成させたところを評価しました。(塚原 光顕)



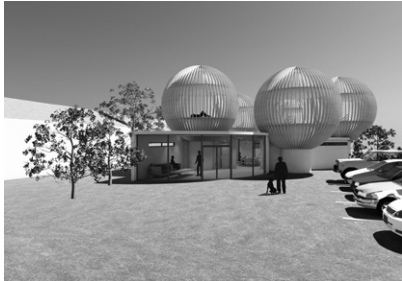
48 これからの集住のかたち:カフェのある集合住宅

今回の該当敷地は目黒川沿いの心地よい風が吹き、落ち着いた雰囲気の住みやすい場所である。この雰囲気を住空間の中に取りこみ、外部の空気や気温・景色の中で生活する。人の生活感や存在を感じるが、直接的に動線を繋ぐことのない曖昧な空間が各住戸を繋いでいく。この空間が周辺環境や隣人との関係をゆるやかに形づくっていくような暮らしを提案する。



水原 優華 (みずはら ゆうか) 明治大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山本 俊哉
指導教員名:山本 俊哉

教員推薦コメント 多様な世帯が暮らす集合住宅の住戸内部に、採光や通風、奥行きをもたらす屋外空間を組み込み、各住戸のスラブをずらしてそのボイドを連続させ、目黒川の桜並木に向けた視界を確保した空間構成力がとても優れている。(山本 俊哉)



49 集合小住宅 ～新しい生活の場を求めて～

集まって住むということは、人々が関わりあうきっかけに満ちていた。しかし、現在は住戸がただ整然と並べられ、これが住人同士の関係の希薄化を招いている。本設計では、集まって住む価値を見出すべく、いくつかのパブリック空間を検討し、プライベート空間である住戸は最小限となるよう計画した。共有と小さな住戸であることから人々が関わりあって生活する場を持つ集合住宅を提案する。



久保田 竜玄 (くほたり りゅうげん) ものつくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:藤原 成暁
指導教員名:藤原 成暁、大竹 由夏、岡田 公彦

教員推薦コメント 市の樹木であるイチョウガがデザインモチーフ。「最小限」を床面積と容積で解決するための球体は周囲の住宅スケールを配慮し、隣接する足袋蔵と好対照を成す。中央のヴォイドで全体を統合しプライバシーを確保している。(藤原 成暁)



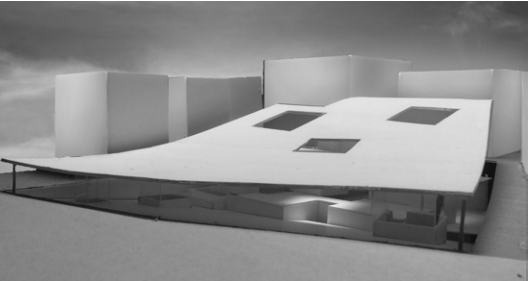
50 「2つある」住宅

住宅において天井には、屋根裏の設備や照明器具の配線を隠したり、部屋に光を均一に広げたりする機能がある。この住宅では一般的には1つしかない天井を2つにすることで天井の新しい意味を考えた。高い天井は開放的な空間をもたらすように、天井の高さは空間の雰囲気に大きな影響を与える。壁を用いず、2枚の天井の高さを操作することによって空間を仕切った新しい住宅を提案する。



小池 奈津子 (こいけ なつこ) 横浜国立大学
理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:仲 俊治 指導教員名:藤原 徹平、仲 俊治、針谷 将史、南 俊充、松井 さやか、山下 真平

教員推薦コメント この課題では床や屋根など建築のエLEMENTに対する批評的な視点を求めた。小池さんは天井を多数化・多言語化し、またあえて素材の差を消去することで、住居に新しい場所性の分布を生み出そうとした。シンプルながら鋭い提案である。(藤原 徹平)



51 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい —Activate Waseda—

路地と大通りの商店街から構成される早稲田のまちの空間性を引き込み、早稲田の住民と学生との交流の場となる集合住宅を提案する。建築内部では住宅密集地に隣接した住空間から大通りに面した劇場空間へ、空間が連続しながら開かれていく。また、学生が住まいながらこの場所で公演や展覧会を行い、まちの人々が訪れることで、大学街のポテンシャルを生かした新たな文化発信地となり得る。



秋山 曜 (あきやま ひかる) 早稲田大学
理工学術院 創造理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名/指導教員名:有賀 隆、中谷 礼仁、矢口 哲也、小岩 正樹、藤井 由理、渡邊 大志、小林 恵吾、山村 健、阿部 俊彦、藤村 龍至

教員推薦コメント 都市文脈を読み解き、それを最大限に活かした提案が評価された。早稲田通りの長い道空間と人々が滞留する交差点空間の二つを重ねた広場の空間は、建築を超えた都市空間の構想であり、その視野の広さが優れている。(指導教員一同)

第18回 住宅課題賞2018 建築系大学住宅課題優秀作品展

主催:一般社団法人 東京建築士会
企画:東京建築士会 事業委員会
後援予定:公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクステレッジ
協賛:ファーパーカステル
特別協賛:株式会社 総合資格
協力:公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]
企画・編集:鷺海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作:株式会社 ケシオン
発行:一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階
[TEL] 03-3527-3100 (代) [FAX] 03-3527-3101 [E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp
[URL] https://www.tokyokenchikushikai.or.jp

© 一般社団法人 東京建築士会 2018

バスルームを自由にデザインする



介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



大型浴室や機械式浴槽設置も可能です。

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様のご要望に応じてお造りしています



オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階(建物右側の外階段より2階へお上がりください)

【営業時間】10:30~18:00 [定休日]日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

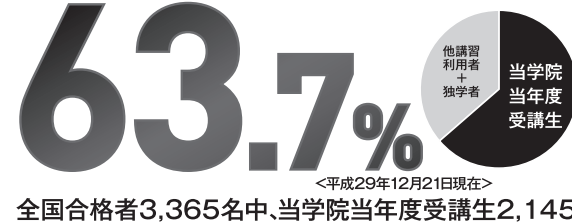
www.t-bath.net

学科試験も設計製図試験も総合資格学院は「日本一」の合格実績!



平成29年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者占有率



※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

平成29年度 1級建築士 学科+設計製図試験

全国ストレート合格者占有率



<平成29年12月21日現在>

全国ストレート合格者1,564名中、当学院当年度受講生1,105名

他講習
利用者
+
独学者
当学院
当年度
受講生

平成29年度 1級建築士 学科試験

全国合格者占有率



<平成29年9月13日現在>

全国合格者4,946名中、当学院当年度受講生2,607名

※全国合格者数および全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。

平成29年度 1級建築士設計製図試験 卒業学校別実績

卒業生合格者10名以上の学校出身合格者の3人に2人は当学院当年度受講生!

合格者占有率 66.3% 卒業生合格者10名以上の学校出身合格者合計2,304名中、当学院当年度受講生合計1,528名

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※合格者数および当学院受講率は平成29年12月21日に判明したものです。

学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院受講率	学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院受講率	学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院受講率	学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院受講率
日本大学	181	119	65.7%	東京都市大学	43	36	83.7%	名城大学	28	19	67.9%	広島工業大学	22	12	54.5%
東京理科大学	108	70	64.8%	大阪工業大学	40	25	62.5%	金沢工業大学	27	21	77.8%	福岡大学	22	12	54.5%
芝浦工業大学	102	66	64.7%	大阪大学	39	21	53.8%	首都大学東京	27	21	77.8%	福岡大学	22	17	77.3%
早稲田大学	71	45	63.4%	東京工業大学	38	24	63.2%	信州大学	27	17	63.0%	愛知工業大学	21	11	52.4%
明治大学	67	48	71.6%	東京大学	38	24	63.2%	室蘭工業大学	26	15	57.7%	鹿児島大学	21	12	57.1%
工学院大学	60	37	61.7%	横浜国立大学	36	25	69.4%	立命館大学	26	20	76.9%	日本工業大学	21	13	61.9%
千葉大学	60	41	68.3%	広島大学	36	26	72.2%	應義義塾大学	25	16	64.0%	日本女子大学	21	11	52.4%
近畿大学	58	43	74.1%	名古屋工業大学	36	29	80.6%	中央工学校	25	18	72.0%	三里大学	18	15	83.3%
法政大学	58	43	74.1%	熊本大学	35	23	65.7%	東海大学	25	21	84.0%	滋賀県立大学	18	13	72.2%
京都大学	56	30	53.6%	東京電機大学	33	20	60.6%	北海道大学	25	17	68.0%	京都建設大学校	17	15	88.2%
神戸大学	52	35	67.3%	東北大学	32	15	46.9%	名古屋大学	25	13	52.0%	関東学院大学	16	15	93.8%
東亜工業機械大学	52	35	67.3%	神奈川大学	31	21	67.7%	新潟大学	24	16	66.7%	千葉工業大学	16	8	50.0%
関西大学	48	30	62.5%	大阪市立大学	29	16	55.2%	千葉工業大学	24	16	66.7%	宇都宮大学	15	12	80.0%
九州大学	44	27	61.4%	東洋大学	28	15	53.6%	前橋工科大学	24	18	75.0%	京都造形芸術大学	15	6	40.0%

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
管工施工管理技士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

賃貸不動産
経営管理士

【法定講習】監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習

総合資格学院

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

総合資格

検索

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

TEL. 03-3340-2810



Tokyo Bath Style